

令和元年度 第4回（仮称）札幌市建設産業活性化プラン検討委員会
議事概要

1. 開催概要

日時：令和元年12月12日（木）14:00～15:40

場所：北海道経済センター 8階Bホール1号室

次第：

1 開会

2 挨拶 札幌市建設局長 小林 安樹

3 議事

- ・（仮称）札幌市建設産業活性化プラン（案）について
- ・計画の名称について

4 閉会

出席者・出席機関：

委員：別添「（仮称）札幌市建設産業活性化プラン検討委員会委員構成」のとおり

札幌市：建設局、財政局、都市局

2. 議事録

(1) 開会

(2) 挨拶（小林建設局長）

6月に第1回の委員会を開催しまして、今回第4回目が最後の委員会となります。今日を含め4回にわたり熱心なご議論をいただき、貴重なご意見をいただいたことに感謝申し上げたいと思います。本日は前回、第3回の委員会でいただいたご意見をふまえた修正点とプランの前半部分の説明。そして、計画の名称についてもご議論いただきたいと思います。

盛りだくさんの内容になっておりますけれども、今日が最後ですので、全体を通してお気づきの点がありましたら、遠慮なくご意見をいただきたいと思います。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

(3) 議事

- ・配布資料及び委員の確認

1)（仮称）札幌市建設産業活性化プラン（案）について

【説明事項】

- ・（仮称）札幌市建設産業活性化プラン（案）

【説明事項に対する意見等】

<女性活躍の推進について>

- ・女性をできるだけ現場で使っていただくために、女性の技術者が入っていたら加点するというのは考えられたりするか。

現状、総合評価の型式の中に人材育成型というものがあり、その中に若年、女性の技術者を

配置した場合加点するというのは今の制度でもある。

入札の参加資格としてという入札はやっていない。どのような企業が女性活躍なのかということについて、どの企業が見てもそうだといいかっこいい基準を決めなければならない。

そうした場合に何社が参加できるのかということも見ていかなければならない。

- ・第3回検討委員会で、「女性が現場で第一線でやっているということをPRできることが望ましい」、「基本方針あたりに女性が働ける産業みたいな言葉があってもいいのではないか」という意見が第4章に反映されているということで拝見したが、女性がこれを読んだときに抵抗感が感じられるのではないか。
- ・建設業で働いている女性は現場に関わる技術職員だけではないので、基本方針の「建設現場で活躍する女性を増やす視点を踏まえ」という部分を「建設産業で活躍する女性を増やす視点を踏まえ」とした方が基本理念との関係がより深まっていいのではないか。
- ・「女性が働きやすい環境を整備する」と基本目標に掲げられているけれども、建設業は現場だけではないと思う。事務職で働く女性も、結婚・出産、親の介護という人生のステージを移り変わる中で働きやすい環境を模索して働いている。現場に限らないイメージを与える表現があるとより良いのではないか。
- ・資料2-5、第5章の施策1-2「女性活躍を通じた魅力発信の強化」の中の3行目に「さらなる女性活躍への好循環」と書かれているけれども、女性の感覚では女性はまだまだ活躍していない。活躍の機会が平等に与えられるところまで至っていないのではないかと思う。「更なる女性活躍の好循環」というのも無理がある感じがした。
- ・活躍と言われるほど活躍していないのに活躍と思われていいのかという感覚を持つ女性も数多くいるし、男女平等の機会もこれからの課題だと思っている。そここのところをもう少し考えた方がいいのではないか。
- ・女性活躍の活躍という言葉については、女性活躍推進法があるので言葉を全部なくすのは難しいと思うが、なるべく女性の方に違和感なく受け入れてもらえる表現とする。
- ・女性活躍を通じた魅力の発信の強化について、若い人たちも同じように建設産業で生き生きと輝いて働いている女性を見てもらいたい。現場で働くことが通常の状態であると理解してもらえたらと思う。
- ・やりがいを持ってという表現ならいいのかもしれないけれども、活躍というと少し違和感があるということ。
- ・第4章、4-5ページの「女性が働きやすい就業環境の優良事例」も技術職に限定しない事例を発信するという方向で書かれるとよろしいのではないかと思う。1章から拝見していると、技術職であり、現場に従事する女性職員というイメージを持ってしまう気がする。
- ・実務的な面言えばトイレの環境が一番だが、結婚・出産、親の介護というライフステージにあった情報はどの女性にも必要だと思う。

女性の働きやすい就業環境というのはトイレだけでなく、例えば育児に関しての時間調整、そういうところも含めてだと我々も思っているの、そういうことが読みとれるように直したいと思う。
- ・参考資料2の基本目標の1に「女性が働きやすい環境を整備し女性活躍を推進する」とあるが、働きやすい環境はじっくりくるものの、女性活躍の部分を建設業界のワークライフバランスを推進するというような表現にできないか。若者の離職防止があまり入っていないが、若い人た

ちが働き続けたいということにもワークライフバランスはこれから重要なポイントになると思う。誰もが働きやすいということにつながるため、女性活躍をワークライフバランスにしてもいいのではないか。全体としてのいろいろな人が働きやすいという感じではなく、女性女性と出てくるところに違和感があると感じた。具体的な施策はこれから考えるにしても、目標にそれがないとおかしいと思う。

離職防止は非常に大切で、担い手を確保していくためには男性も含めて働きやすい環境が重要ですので、目標に反映したいと思う。

- ・第5章、5-5 ページの「1-2-2 女性活動団体との連携強化」について、今後新たな団体が生まれているかもしれないので、あえて特定の会の名前を入れずに女性主体で構成される任意団体と、漠然としたとした会としたほうがよいのではないかと思う。
- ・今後任意ではないNPOが出てくるかもしれないので、活動団体ということでもいい。建設産業に新しい団体が出てきてもいいように、特定の会の名前を入れない方がいいかもしれない。

<地域の安全・安心の確保について>

- ・災害の時の緊急対策用の企業はピックアップされているのか。
各区に災害防止協力会という建設業界の団体があり、そこと災害協定を結んでいて、その協定に基づいて協力をお願いすることになる。その他に個別の団体とも協定を結んでおり、団体に入っている企業一括に協力をお願いする形となる。

<技術の向上、作業効率化について（生産性向上）>

- ・第3章 3-8 ページの将来推計（建設業就業者数）で、47,000人が15年経つと30,000人くらいになってしまい、除雪従事者は6割くらいになってしまうことに対してどうするのがこのプランのそもそもだと思う。方策としては担い手を確保していくということと、頑張っても全体の人口が減るのは間違いないので、減っても建設、社会資本の維持ができる、除雪ができるよというというのが目的だと思う。
- ・そういうことで第4章 4-3 ページ、基本目標を見ると、ぼやけているなど改めて感じてしまう。基本目標1が担い手確保、目標2が地域の安全・安心ということで、目標3に技術力の向上と作業の効率化。これが少ない人数でもなんとかやっていこうということだと思うけれども、国の方では生産性向上という言葉を使っていて、担い手を確保して、生産性を向上して、それで地域の安全・安心を守るのだという方が分かり易い気がする。可能であれば「生産性向上」というキーワードを入れるとよいと思う。

基本目標3の1番目の考え方で、技術力の向上や作業の効率化は品質の確保とともに労働力不足への対応、ここに書いているのは生産性向上のことなので、目標のタイトルの中に加えたい。ちなみに取組目標では生産性向上はあるけれども、基本目標の中にも入れたい。

<技術の向上、作業効率化について（多能工化）>

- ・多能工化という言葉が一か所か二か所入っていたけれども、せっかくだからもう少し多能工化を進める方がよくはないか。
- ・札幌ではないが、本業は設備屋で冬の設備工事のない時に内装工事の資格を取って従業員にやらせたり、屋根工事の人が電気の免許を取ってやると助かったという話が耳に入ってくるので

どうかなのところである。

多能工化に向けておそらく資格取得が必要になるため、資格取得についても助成をするということで、それで多能工化ができるのではないかという考えであった。あとはニーズがどのくらいあるかということ踏まえながら記載について検討していく。

- ・私たちのところでは、一級土木の資格を持っている人間でも水道の配管の技術を持たせて、現場によっては配管をやって、配管の図面を起こすところまで育てている。自分の主体的な仕事のすぐ横にあるような仕事であれば、多能工化も可能かと思う。
- ・必ずしも技能だけでもないのかもしれない。現場の施工管理をする人が場合によっては技能的なこともやることもある。

<技術の向上、作業効率化について（品確法の改正への対応）>

- ・5章の5-9ページ、施策2-4受注者の作業効率化の推進に、「このような受注者の取組の必要性を踏まえ、発注者は受注者の作業効率化に資する取組を推進する。」と書いてあるが、品質の向上は受発注者両方が取り組むべき必要性があるということから進んできている。入札制度にしても、最低制限価格にしても、安かろう悪かろうでは品質に問題が出てくるから、仕組みを改善しながら取り組みを進めていく必要がある。基本的には「受発注者協働の取組の必要性がある」ということではないかと思う。
- ・(上記意見に対して)重要なポイントだと思う。発注者と受注差のかかわり方ということで。この表現をご検討いただければと思う。

<教育分野との連携について>

- ・文部科学省の意向が強くて難しいかもしれないが、職業の授業で建設業について取り上げることはできないか。現場に行くのはすごくいいことだが、現場にまで行かなくてもいろいろな職業を説明してあげる機会があれば子供たちの選択肢が広がるという気がした。

今回は中学校、中学生を対象とした現場見学会のお話があり、そのあとでこのような技術の時間を活用するという事例が分かった。いろいろと教育委員会等と相談してどのような形ができるか考えていく。

<グラフ等の表現について>

- ・グラフなどで西暦と平成が混在しているところは見直していただいて、どちらかに統一していただくということをお願いする。

2) 計画の名称について

【説明事項】

- ・計画の名称案（4案）及び表紙イメージ案

【説明事項に対する意見等】

- ・事務局提示の計画名称案に対して、参考として多数決を実施した。その結果は以下のとおり。

案1「札幌市建設産業活性化プラン」: 0人

案2「札幌建設産業活性化プラン」: 0人

案 3「さっぽろ建設産業活性化プラン」: 10 人

案 4「建設産業活性化さっぽろプラン」: 2 人

- ・表紙については、各員からそれぞれの印象に対してご意見をいただきました。
- ・A-1 か A-3 がいいかなと思う。
- ・B 案は札幌市の中心部の地図でよいかという印象があり、抽象化されている地図を用いて温かみのある優しいイメージなら C-2 もいいと感じた。
- ・札幌市も定山溪とかを含んでいるので、そういうところの方が特徴的かなという意味では B、もう少し抽象的な地図の方がいいかなと思う。
- ・A-3 が、やわらかくて、森とか木が描いてあったり、人がいたりするのがいいなど。他にも地図や重機は建設産業と分かりやすいのですけれども固いし、C 案は防災地図みたいに見える。上に都市があって、下に重機が見えるとあまりにも縁の下の力持ちに見える。主役になった方がいいのではないかな。
- ・どのパターンも下に札幌市と漢字で表記されているが、先ほどの多数決の結果、さっぽろとひらがなで表記されているのであれば、下の札幌市は英語表記のマークにすると雰囲気が変わるのではないかなと思った。
- ・A 案の中に、旧態依然とした機械しかなくて、ドローンもないし、設計者や女性もいない。そういうものもあるともっといいかもしれません。

3) 今後の予定について

- ・市の内部調整を 2 月下旬頃まで段階を追って進めて、3 月には市議会へ報告、その後パブリックコメントを行ったうえで来年 4 月以降の策定を予定している。本日いただいたご意見のプランへの反映はもちろん、今後も用語の説明、写真の追加、細かな表現や体裁の修正など、策定に向けて作業を進めたい。今後も記載内容にお気づきの点がありましたら事務局までご連絡いただきたい。

(4) 閉会（小林建設局長）

今後の少子高齢化、人口減少という将来を見据えた場合、建設産業の抱える担い手不足という課題が、目の前の喫緊の課題だという認識のもとに、本プランの策定に取りかかったものです。

手探りの状態で現状把握から始めましたが、検討委員会 4 回、検討部会 2 回、のべ 6 回の会議で、委員の皆様から様々な視点でたくさんのご意見をいただいたおかげで、何とか今日素案の形に組み上げることができたものと考えているところです。今後、体裁、用語、それぞれ内容のブラッシュアップを行い、来春の策定、公表を目指してまいります。

策定が目標ではないので、策定後についても検討部会の皆様、各団体の皆様などのご協力をいただき、取組の情報共有、意見交換のフォローアップも行い、魅力あるプランにしたいと考えています。各委員には引き続き様々な場面でご助言をいただければと考えています。

最後になりますが、皆様のお力添えによりまして何とかまとまりましたことに重ねてお礼を申し上げますとともに、この時期ですので、よいお年をお迎えいただけますようご祈念申し上げます。委員会終了の挨拶といたします。本当にどうもありがとうございました。

以上